

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2026年 第5週（1月26日～2月1日）

今週のコメント

～インフルエンザ～ 咳エチケット、手洗い、マスクの着用が重要

定点把握感染症

「インフルエンザ 増加続く」

第5週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は2,038例であり、前週比4.0%増であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、水痘の順で、定点あたり報告数はそれぞれ6.80、1.77、1.28、0.36、0.31である。

感染性胃腸炎の報告数は前週比8%増の1,258例で、北河内9.65、中河内9.32、南河内9.07、豊能8.18、泉州6.45であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は6%減の327例で、泉州3.05、大阪市南部2.65、北河内2.22である。

RSウイルス感染症は10%増の237例で、南河内2.47、大阪市北部2.46、大阪市西部2.10であった。

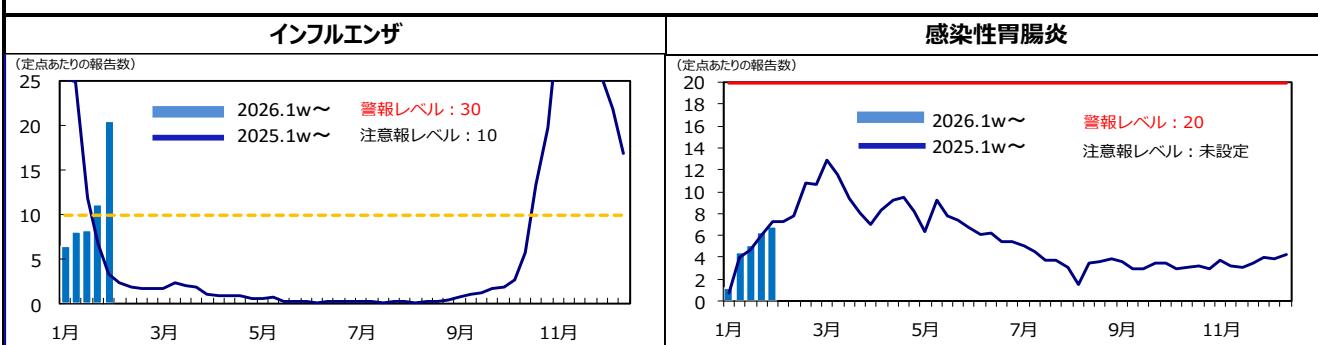
咽頭結膜熱は12%増の66例で、北河内0.70、大阪市南部0.65、中河内0.58である。

水痘は34%減の57例で、泉州0.70、南河内0.40、大阪市北部0.38であった。

インフルエンザは84%増の5,972例で、定点あたり報告数は20.59である。北河内26.74、大阪市西部23.87、中河内23.41、南河内23.13、泉州22.97であった。全11ブロックで前週と比べて増加している。

新型コロナウイルス感染症は15%増の253例で、定点あたり報告数は0.87である。堺市1.44、大阪市北部1.25、南河内1.09、北河内1.05、豊能・大阪市東部0.85であった。

急性呼吸器感染症（ARI）は、28%増の16,285例で、定点あたり報告数は56.16である。南河内81.52、北河内74.37、堺市66.20、中河内65.07、泉州59.48であった。



※2025年第15週以降、定点医療機関数の変動により、警報レベル・注意報レベルの数値は参考値

表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2026年 第5週1月26日～2月1日）

第5週の順位	第4週の順位	感染症	2026年第5週の定点あたり報告数	前週比増減	2025年第5週の定点あたり報告数	2026年第5週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	6.80	8%増	7.25	1歳_14%
2	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.77	6%減	1.51	10-14歳_13%
3	3	RSウイルス感染症	1.28	10%増	1.73	1歳未満_30%
4	6	咽頭結膜熱	0.36	12%増	0.20	1歳_20%
5	4	水痘	0.31	34%減	0.13	10-14歳_28%
参考		インフルエンザ (急性呼吸器感染症定点報告疾患)	20.59	84%増	3.34	10-14歳_32%
参考		新型コロナウイルス感染症 (急性呼吸器感染症定点報告疾患)	0.87	15%増	4.30	10-19歳_17%
参考		急性呼吸器感染症 (急性呼吸器感染症定点報告疾患)	56.16	28%増	-	1-4歳_30%

2025年第15週から急性呼吸器感染症(Acute Respiratory Infection : ARI)サーベイランスが開始となりました。

2025/26年シーズンのインフルエンザ集計は第36週から開始しました。

各疾患の詳細は、大阪府感染症情報センターホームページ（定点把握疾患、疾患別情報、病原体検出情報）をご覧ください。

第5週のコメント

～麻しん～ ワクチンで予防可能な感染症です。

